

山西大学オンライン留学報告書

高橋 良輔

【はじめに】

私は 2021 年 9 月から 2022 年 6 月までの約 9 ヶ月間、令和 3 年度山西大学オンライン留学事業に参加させていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響により留学の全期間がオンライン形式での授業となってしまったものの、私の人生において忘れられない経験となりました。本レポートでは、私のオンライン留学生活全般の体験談についてまとめていきます。

【オンライン留学に参加したきっかけ】

私が本留学に参加した最大の理由は、山西大学で中国語を学習できるからでした。私は大学 1 年生の頃、必修科目であった第二外国語講座として中国語を選択しました。現在通っている大学は、30 年以上前から山西大学と交流協定を締結しています。その関係もあって、中国語の授業は山西大学出身の中国人講師が担当していました。彼女はよく講義中に山西省に関する話をしており、その頃から山西省に対する興味が湧いていました。

一年間の中国語講座が終了した後、私は大学の実施する山西大学言語文化研修制度を利用し、三週間ほど山西省に赴いて短期留学をしました。日本においてまだ知名度の低い山西省ですが、私は 2,500 年以上の歴史がある省都太原市の奥深さ、そして日本の地方都市以上に発展した街並みや生活インフラに感動しました。さらに山西大学で出会った現地の講師や現地大学生、欧米諸国からの留学生との交流に刺激を受け、帰国時にはより一層山西省が好きになりました。そして大学 3 年生の夏、埼玉県が山西省への留学事業を実施していると知り、今回参加しました。

【留学の目標】

私の留学における目標は、中国語を用いて情報収集ができ、中国人とコミュニケーションを取れる状態になることでした。私は大学 4 年生からの長期留学ということで、予め日本で就職活動を終えてから参加しました。就職先は直接中国語を活用できる環境ではありませんでした。しかし、将来的には台湾やシンガポール等の中国語圏で事業展開する予定がありました。そこで中国語をビジネスに活用できる土台を築いておくべく、視覚的に分かりやすい HSK5 級を目指して学習を進めてきました。

結果的にオンライン留学での学びを活かして HSK5 級に合格できたため、目標は十分に達成できたと実感しています。

【留学前の準備】

留学の参加が決定してからは、基礎的な中国語スキルを身に付けるべく、オンライン中国語レッスンを開始しました。中国語学習には一年ほどのブランクがあったため、留学前に継続して勉強する環境を作る上でも効果的だったと感じています。

具体的には、中国語ネイティブによる毎日 25 分間のマンツーマンレッスンで、中国語中級レベルのテキストを音読したり、文法問題を解いたりしつつ学習を進めました。留学の開始二ヶ月前には HSK4 級を受験して合格し、当初の目標であった基礎力が備わった状態でオンライン留学に臨むことができました。

【留学当初について】

留学初日は班分けテストが実施されました。まずは筆記試験が実施され、形式は日本の大学で行われる期末試験と似たようなものでした。授業でも使用される「釘釘（ディントーク）」内に PDF 形式で試験問題と答案用紙が事前にアップロードされており、それらを印刷して手書きで解答しました。解答後は答案用紙をスマホで撮影し、釘釘上から講師に送付しました。

試験内容は私が事前に受験していた HSK4 級程度の問題が中心だったと記憶しています。筆記試験後には山西大学の中国語担当教師が学生一人ずつ、口頭試問を実施しました。課題は中国語での自己紹介のみで、これまでの中国語学習歴や留学の目的など、どれほど多くの情報を伝えられたかによって評価される形でした。筆記試験については HSK4 級を取得していればさほど難解なものではなく、口頭試問も自己紹介は特に重点をおいて練習していた項目であったことから、私は上級クラスに振り分けられました。

いざ二日目から本格的な授業が始まってみると、学習内容から授業の雰囲気まで、自分の実力とは乖離しているような気がしました。一週間ほど上級クラスで取り組んだものの常に息苦しさを感じ、中国語学習を諦めるべきかどうかまで思い悩むようになりました。当時から継続していたオンライン中国語レッスンの講師とも相談し、レベルを一段階下げてみたらどうかとの提案を受けました。私もその意見に賛成し、大学側に中級クラスへの変更を希望しました。

二週目からは中級クラスの学生として授業に参加しましたが、まだ開始して日も浅かったことで問題なく班に溶け込むことができました。中級クラスは日本時間 9 時 30 分から 13 時 10 分まで、10 分間の休憩を挟んで一日 2 コマです。「精読」「聴説」「閲読」の講座から組み合わせて授業が行われました。「精読」は単語や文法の学習がメイン、「聴説」は会話がメイン、「閲読」は読解問題がメインの講座です。そのうち「精読」と「閲読」は以前に現地へ短期留学した時と同じ講師が担当してくれたため、開始当初から安心して授業に取り組みました。残念ながら、講師はお二人とも私が以前に会っていたことを覚えていないようでした。

【中級クラスの難易度】

私は上級クラスから中級クラスにレベルを下げたものの、授業自体は簡単なものではありません。特にオンライン留学が始まってから二ヶ月ほどは、講師の話す内容を全体の半分程度しか聞き取れませんでした。さらに私が指名され、指定されたテーマに対して意見を言うような場面でも、そもそもの質問が分からないために的外れな発言をしたことも多々ありました。さらに、中国語で重要な声調や語順もいい加減であったため、やっとのことで話した中国語でさえ、中国語と認識されなかった可能性も考えられます。

日本は漢字文化圏であるため、日本人も中国語の読み書きに対してさほど苦労はありません。一方でリスニングとスピーキングは漢字に頼れないため、理解できていない単語ばかり話されてしまえば完全に聞き逃すこととなります。同じ中級クラスに所属しているのは私以外のほぼ全員が本科留学生の東南アジア人であるため、彼らはある程度リスニングとスピーキングにも対応できていました。その時点では私も焦りを感じていたと思います。

数ヶ月も中国人講師の話す中国語に接していれば、次第に耳が慣れてきて、失敗を繰り返しつつスピーキングも上達してきました。結果的に、講師や他の留学生が話す中国語も 8 割ほど理解できて意図が掴めるようになり、相手に伝わる中国語を話せるようになりました。

【オンライン留学の雰囲気】

今回はオンライン形式の留学であったことから、正直なところ気持ちの良い雰囲気だったとは言い難いです。講義中は基本的に講師も留学生も顔出しをせず、発言しない時はマイク機能もオフのままでした。そのため私は一緒に参加していた留学生の顔が分からず、私は以前に現地で講師と会った経験があるものの、他の留学生の中には講師の顔さえ知らない方もいたはずでした。

コミュニケーションを取る上で顔が見えない状態は不安を増大させるため、講義中も静まり返ったような雰囲気が漂っていたこともありました。自主的な発言についてもクラス全体 25 人のうち積極的な数人を除いては、私を含めて気まずさの影響から声を出しづらくなっていました。

後期は講師方も雰囲気を察知してか、学生を指名して発言させるような工夫を取り始め、比較的にアクティブに授業に参加しやすい環境が構築されていったと感じています。

【留学生との交流】

クラス内の雰囲気からも読み取れる通り、留学生はシャイな方が多く、授業内でのグループワーク以外では交流する機会を持てませんでした。ただし、授業内容は私と同じく他の留学生も理解できない部分が多々あったようで、授業後に問題の正答を教え合うなど最低限の交流は深めることができました。

【留学を通して得た学び】

今回のオンライン留学を通して最も得られたものは、語学力の向上と、主体的に行動する重要性です。

留学前には中国語での情報収集や、中国人と気軽に交流できる会話力を身に付けるという目標を設定していました。この目標は約 9 ヶ月の留学で十分に達成できたと考えています。実際に留学期間中は並行して「江蘇衛視」など中国衛星テレビ局のニュースやバラエティ番組をパソコンから視聴し、大まかな意味が理解できる状態までになりました。また休日は都内で中国人が経営する中華料理店を訪れて中国語のみでオーダーし、食後には中国人店員と会話するなど、中国語を通じた交流ができるようになりました。さらに冬季休業時は「HelloTalk」という言語交換アプリを活用し、現在アメリカの大学で日本語を専攻している広東省出身の中国人学生と知り合いました。毎日お互いの言語を組み合わせつつ、近況を語り合ったり言語学習で分からない部分を教えあったりと、充実した時間を過ごせています。

このように引っ込み思案の傾向があった私にとって、留学の経験がなければできなかったはずの主体的な行動を取れているのは、オンライン留学が大きな転機になりました。中国文化に触れる時間が少ない日本からのオンライン留学だったからこそ、自主的に中国語のインプットやアウトプットを行う方法を模索できたのは大きなメリットだと考えます。

【留学を通しての反省点】

留学外においては自主的に言語学習を進められたものの、オンライン留学を振り返ると授業内でもっと積極性を持てば有効活用できる時間があつたと考えます。ほとんどの留学生が講師の質問に解答せず、授業が数分に渡って中断してしまうケースが多々見られました。その際に自分が萎縮せずに発言できれば、授業が停滞することもなく、なおかつ講師から適切なフィードバックを最短でもらえたはずでした。他の本科留学生は四年の留学期間があるものの、奨学生である私には一年弱の留学期間しかありませんでした。それゆえ授

業内での積極性は持つておくべきだったと後悔の念に駆られています。

アクションを起こさなければ何も生まれないけれども、小さなアクションを起こせば大きな変化が生まれることを意識しつつ、今後の人生に活かすつもりです。

【おわりに】

新型コロナウイルスの影響により現地留学ができず、学習時間の限られたオンライン留学になったことで、完全に満足した形の留学とはなりませんでした。とはいえ約9ヶ月の留学期間で、さまざまな学びや経験を積むことができたのは事実です。今回の留学を通して得られた知見を今後を活かし、より充実した人生を歩もうと考えています。

状況が落ち着いて中国に渡航できる状態になれば、また山西省を訪れてお世話になった講師方に直接感謝を伝え、現地でしか触れることのできない文化を体験するつもりです。

最後になりましたが、この度令和3年度山西大学オンライン留学事業に参加する機会を与えてくださった埼玉県庁職員の方々、特に留学生のサポートをいただいた埼玉県国際課の矢萩さんには心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。